

本文組見本

●親見出し語。下部には、子見出し語を並べて配列。

●関連用語も調べやすい。

【形】【茎】【経】

◆**形**(けい)
形体を指す。医師は人の形体の強弱や肥瘦などを観察することによって、臟腑気血の盛衰・邪正の強弱を理解し、疾病の予後などを推測する。したがって形体の観察をすることによって疾病の診断治療の参考にすることができる。

◆**形寒肢冷**(けいかんしれい)
「形寒」とは、寒さを畏れること、「肢冷」とは、四肢が氷のように冷たくなること。「形寒肢冷」は、身体や四肢が冷たくなる症状をいう。陽気不足・陰寒内盛となり、陽気が身体や四肢を温煦できなくなると起こる。

◆**形盛気虚**(けいせいききょ)
「形盛」は肥満していることを指す。「気虚」は脾気虚を指すことが多い。形盛気虚の状態にある者には、外面上は身体が肥満しているものの、食は細く、動く息切れがし、顔には光沢がなく、精神不振であることなどが特徴的にみられる。

◆**形臑**(けいぼう)
有形物を貯蔵することのできる臓器を指す。胃・大腸・小腸・膀胱という4つの内臓が含まれる。(※『素問』三部九候論篇) 胃・大腸・小腸は食物と食物の残渣と水を貯蔵し、膀胱は尿液を貯蔵する。

◆**形瘦肌削**(けいそうきせき)
「形」とは身体のこと、「肌」とは筋肉のこと。この語句は身体が極度に瘦

けい

◆**経**(けい)
「経気」は経脈あるいは絡脈の中を運行している気のこと、邪気と相対する意味で用いられる気、すなわち、経脈の正気のことである。経気は先天の精と後天の精が化生することで補充され、経脈中を運行して全身の各部分に行きわたって内臓と組織器官の活動を促す動力となっている。また、人体の正常な生命活動を維持すると同時に、疾病に対する防御の役割も果たす。

◆**経期延長**(けいきえんじょう)
経事延長・月水不調ともいい、定期的に月経来潮がみられるもの、出血期間が長いものを指す。一般的に7日以上出血が持続するものを指すが、はなはだしい場合は半月に及ぶ。本病は、気虚または血熱が原因となって衝・任脈が固滞を失うことにより起こる。治療は補気扶正を原則とし、針灸治療では任脈・足少陰経・足太陽経・足厥陰経などの気血調整を行う。また病因の違いによって本病は「**気虚経期延長**」と「**血熱経期延長**」に分類される。

◆**気虚経期延長**(ききょけいきえんじょう)
脾気虚によって血液が統括を受けず、月経が延長する(7日以上、はなはだしいものは半月に及ぶ)ものを指す。経色淡色・経質清希といった特徴がみられ、全身症状としては精神疲労・全身無力感・動悸がしてよく眠れない物を食べたがらない・大便希薄などの症状をみる。舌所見では舌質は淡赤・苔薄白、脈は緩弱である。本病証は虚弱体質の患者が、過度の労働や飲食の不摂生により、その脾胃の機能を損傷したために起こる。つまり脾胃がさらに虚し、血液の統括が不能となったた

【と】

◆**盗汗**(とうかん)
「盗」は、盗賊のことであり、「こっそりと」という意味がある。「盗汗」とは、入睡後に汗が出て、目が覚めると汗が止まる症状をいう。(※『金匱要略』血痹虚劳病脈証併治) 盗賊がこっそりと物を盗むように、人の入睡後にこっそりと出ることから、盗汗といわれている。多くは陰液不足のために虚熱内生となり、この熱が汗を外に出すことにより起こる。手掌・足底・心胸部の煩熱、両頬部の軽度の紅潮、不眠、口やどの乾燥などの症状をしばしば伴う。陰虚内熱証に多くみられる。**自汗**と盗汗は、ともに病理的な現象である。前者はいつの間にか汗が出て止まらないという症状であり、陽気虚に属しているが、後者は入睡時にだけ汗が出て目が覚めると汗は止まり、陰虚内熱に属している。

●イラストや図表が随所に入って一目瞭然。

●**中医病名にはそのなかの代表的な証分型を下部に併記。**

●**病因・病機に始まり、治法・方剂名・針灸配穴を記す。**

●丁寧でわかりやすい解説。病理機所から症状、さらには類似病証との比較についてもしっかりと理解できる。

*が付いている語は、別に見出し語として記載されていて、そちらに詳しい説明がある。

序文(抜粋)

私は30年余りにわたって、国内外で中医学の教学および臨床に携わってきた。その経験のなかで感じるのは、正確に中医学用語を理解することが、中医学を習得・運用する鍵であり、前提であるということである。そこで、伝統医学を広く発揚し、国内外の中医初学者の切実なる要望に応えるため、本書を出版すべく、中医学の教授および助教授・講師によって、『中医基本用語辞典』編集チームを結成した。

編集過程では、まず使用頻度の高さを重視し、代表的な用語を抽出し、項目の選定を行った。解説文は可能な限り正確に、わかりやすくし、比喩や豊富な図表を用いている。さらに見出し項目に含まれる難解な字については、簡単な解釈を加えるようにしている。また、特に互いに関連する項目の鑑別・比較には注意を払い、その相違点を明らかにし、理解の助けとしている。本書は、基礎理論の専門家や中医初学者である各国留学生の意見を何度も聴取し、内容を吟味したうえで脱稿したものである。より多くの中医愛好者および志ある中医初学者の、良き友・良き師になることを期待している。

私は中医初学者が一心に研鑽し、深く臨床の実践に身を投じ、中医学の神髄に触れ、伝統医学にいつそうの輝きを与え、人類に貢献することを望む。

天津中医薬研究院 名誉院長
中国中医薬管理局重点学科術 主任教授 **高金亮**

四肢および体幹部を自発的に動かすことによって、患部の回復を促進し、各種疾病を予防する方法。局部だけを動かす局部鍛練と、全身を動かす全身鍛練、器具を使う器械鍛練などがある。血液循環を促して瘀血を除去し、腫脹や疼痛を消し、筋絡を濡養し、関節の癒着や骨粗鬆・筋肉の萎縮を防止し、骨折部の癒合を促進し、全身の生理機能を回復させる作用がある。

◆冬温(とうおん)

冬に反常の気候(冬季は寒冷の気候であるはずなのに温熱の気候になる)を受けて起こる熱性病のことをいう。(『傷寒論』傷寒例、「傷寒論」冬温証) 【症状・伝変法則・治療法】⇒風温

◆灯火灸(とうかきゆう)

俗に打灯火ともいう。「灯」は灯心草のことで、「火」は点火するの意。「灯火灸」とは、灯心草に油を染み込ませて点火し、穴位を直接焼灼する方法で、灸法の一つである。(※『本草綱目』) 1節の灯心草に植物油を染み込ませ、点火した後、穴位上で燃焼させる。燃焼が皮膚に達するころにパンという音がする。施灸した後は局部を清潔にし、感染を防止する。この灸法は耳下腺炎・小児のひきつけ・小児の消化不良・



灯火灸法

しゃっくりなどの病症に用いられる。

◆頭角(とうかく)

額角のこと。⇒額角

◆燙火傷(とうかしやう)

高温によるやけどを指す。そのうち高温の液体または蒸気によるものを燙傷といい、火や火器によるものを火傷という。(『外科正宗』)

◆投火拔罐法(とうかばつかんぽう)

拔罐法*の一種。アルコール綿球や紙片に点火し、これを罐の中に投入した後、すばやく施術部位にかぶせ、罐の口が皮膚表面にぴったりと吸い着くようにする。10分ほど留置して、局部の皮膚が暗紫色ないし暗紅色にうっ血してきたら罐を取り外す。この方法は、身体側の側面への施術に適しており、その他の部位では、罐内の綿球や紙片で皮膚を火傷する恐れがある。

◆盗汗(とうかん)

「盗」は、盗賊のことであり、「こっそりと」という意味がある。「盗汗」とは、入睡後に汗が出て、目が覚めると汗が止まる症状をいう。(※『金匱要略』血痹虚劳病脈証併治) 盗賊がこっそりと物を盗むように、人の入睡後にこっそりと出ることから、盗汗といわれている。

【と】

多くは陰液不足のために虚熱内生となり、この熱が汗を外に出すことにより起こる。手掌・足底・心胸部の煩熱、両頬部の軽度の紅潮、不眠、口やどの乾燥などの症状をしばしば伴う。陰虚内熱証に多くみられる。自汗と盗汗は、ともに病理的な現象である。前者はいつの間にか汗が出て止まらないという症状であり、陽気虚に属しているが、後者は入睡時にだけ汗が出て目が覚めると汗は止まり、陰虚内熱に属している。

◆陰虚盗汗(いんきょとうかん)

陰虚内熱により引き起こされる盗汗*病証である。(『素問』五運六気篇) 主な症状として、夜間入睡後に汗が出る・覚醒すると汗が止まる・手掌と足裏の熱感・および心胸部煩熱・午後の定時に発熱する・両頬が赤くなる・口乾口渇がある・舌紅・苔少・脈細数などがみられる。本病証の多くは、過度の疲労や過度の房事により、肝腎の陰を損傷するか、または出血によって陰精を損傷したり、邪熱が盛んになりすぎて陰精を消耗することが原因となる。陰精が虚すと、虚火が内生し、津液を外へ押し出すために発症する。治療では、滋陰降火を主とする。当帰六黄湯を主方として加減する。針灸治療では、腎俞・太谿・厥陰経・曲池などの経穴を用い、平補平瀉法で刺針を行う。

◆産後盗汗(さんごとうかん)

出産後、睡眠時に多量の発汗をみるのが、覚醒時には発汗が止む、という状態が長期間にわたって継続するものをいう。(『傳習主女科』) 臨床では睡眠中の多量発汗(覚醒時には止む)を主症状と

し、そのほかに顔面両頬骨部の発赤・めまい・耳鳴り・手掌と足底の熱感と心胸部煩熱・口やどの乾燥・水を飲みたがらない・腰膝がだるく力が入らない、などの全身症状がみられる。舌質は紅または絳・舌苔は少または無苔・脈は細数無力である。本病は患者の陰虚体質が基礎となっており、出産により気血不足がさらに進むと陰虚傾向が増強し、この結果生じた内熱が津液を蒸迫し、盗汗が現れる。治療は益氣養陰・清熱和營・生津止汗を原則とし、生肌散に加味して処方する。針灸治療では心俞・肺俞・膈俞・大椎穴などを選択し、補法、または平補平瀉法を行う。

◆陶罐(とうかん)

火罐*の一種。陶土を焼いて作ったもの。罐口が滑らかで、水の鉢のような形をしている。吸着力は大きいので、落とすと壊れやすい。



陶罐

◆**透關射甲(とうかんしゃこう)**
「透」は通過の意味、「射」は射当てる・いたるの意味、「甲」は爪甲を指す。「透關射甲」とは、邪氣が風閥から氣閥を通過して指の末端(爪甲)までいたることを指す。(『四時執中』) 小兒食指絡脈*は風・氣・命の三閥に分けられている。食指の基節を風閥、中節を氣閥、末節を命閥という。絡脈が風閥に露見している場合は、病邪が絡脈に侵入していることを表している。この場合は侵入部位はまだ浅く、病状も比較的軽い。絡脈が氣閥まで露見している、その色が深い場合は、病邪がすでに経脈に侵入していることを表している。こ

と